

「へ喜いさん」

「あまつさへあまつさへ」

「喜いさん何や賣りに来て居る様な」

「餘つさへ、淀川丸の短刀奪い取つて立退し曲者」

「へエ寅はん」

「斯言ふ某は、彼岸中日頃好」

「喜いさん」

「桃山群集酒盛」

「寅はん」

「此處で逢ふたは優曇華の」

「喜いさん」

「花咲く春の心地して」

「寅はん」

「不具戴天の父の仇」

「喜いさん」

「率、尋常に」

「兩人一楮に」

「勝負く」

「松さん」

「勝負などとは、片腹痛い、汝等寄つたら返り討だ」

「臺詞が解りましたら、立廻りの稽古を」

と是れから箒や物差を刀の代りにして、立廻りの稽古、定はん何が損に成るや解らん、襖を突破るやら、障子の棧を打ち折るやら騒動、漸々の事で立廻りの稽古が出来ました。

「定はん大きに」

「結構、私し是れから芝居の衣裳屋へ行って小道具を借つて來ます、貴郎方は今晚臺詞を稽古して置くなはれ、翌日の朝早う來とくなはれや」

「何卒お頼み申します」

皆は歸りました、定はんは衣裳暨小道具を調へて待て居りますと、朝早うから、

「定はん、お早よう」

「イヨー 早うおいなはつたなア」